令和４年６月　　日

第73回上伊那教育会夏期講習

**夏期講習だより**　　　　第４号

夏期講習運営委員会（文責；長田明日佳　伊那小 ）

**６月２１日（火）　第３回夏期講習会事前読み合わせ会報告**

　第３回読み合わせ　令和４年６月２１日（火）

　読み合わせ範囲　「西田哲学選集」第一巻　「西田幾太郎による西田哲学入門」　第二部　「善の研究」

　　　　　　　　　　　第四編　宗教　　第三章　神

　司会者　：宇津　大地 先生（高遠小学校）　　　　　レポーター ：中村　優希 先生(東春近小学校)

**＜中村　優希先生レポートから＞**

|  |
| --- |
| ○イングウォルスという人は『人及び神の人格』と題する書中において、人格の要素として自覚、意思の自由、及び愛の三つをあげている。P234.L13～L14  ○自覚とは部分的意識体系が前意識の中心において統一せらるる場合に伴う現象である。P234.L14～L15  ○自覚とは反省に由って起こる、而して自己の反省とはかくの如く意識の中心を求むる作用である。P234.L15～L16  ○自己とは意識の統一作用のほかにない、この統一がかわれば自己もかわる、このほかに自己の本体というものは空名にすぎぬのである。P234.L16 ～P235.L1 |

**西田にとっての「神」とは**

　私たちにとって「神」とは崇高なものであると思います。「神頼み」「神のみぞ知る」などの言葉、神社で神様を祀るなど、古くから日本人はその崇高さを信じ、信仰してきました。しかし、若松（2019）（注１）によると、「『神』は人間を超えながら、同時に私たちの心に内在する。それが西田の『神』の理解なのです。　～中略～　遠く彼方に神を感じつつ、わが身の内に神を探せというのです。」とあります。西田にとって「神」とは内なる、「自己」として捉えていたのだと解釈しました。

（注１）NHK１００de名著　善の研究」　若松英輔　2019（NHK出版）

**初めて受け持つ、「１年生」　成長してきた子どもたち**

　６月ごろになると、子どもたちはだんだんと学校生活に慣れ、休み時間の過ごし方のバリエーションや、新たな友達との関わりが増えてきました。そこでRさんとMさんについて取り上げます。RさんとMさんは、初めて同じクラスになりました。お互いにすぐ仲が良くなり、休み時間は折り紙をしたり、校庭で遊んだりと、一緒に遊ぶ姿が良く見られました。しかし、お互いに気が強く、「Rちゃんが嫌なことをした。」「Mちゃんだって～～って言ってたじゃん。」など、小さなトラブルが多々見られるようになってきました。トラブルの指導をする際に、私自身に余裕がなかったせいもあり、双方の話を聞いて私から謝罪を促したり、加害した子のみの指導だけになったりしがちでした。そこには、Rさん、Mさん自身の反省はなく、表面的な指導になっていました。

　ある日の２時間目休みが終わると二人の間でトラブルが発生しました。話を聞くと、お互いの主張を譲らず、話が解決せずに３時間目に突入してしまいました。図式化して、状況を整理するとMさんが先にごっこ遊びをしようとしたところに、Rさんも参加しましたが、役が決まらずになんとなく遊びが始まったようです。しばらくすると、「同じ役が何人もいて困った。」とMさんが訴えてきました。しかし、Rさんは「勝手に始められたからそのまま参加した。」と主張しました。私は、まず自分の主張をする前にお互い、何がいけなかったのかを聞きました。Mさんは「勝手に遊びを始められたのがいけなかった。」、Rさんは「勝手に始めたところになんとなくで入ってしまったのがいけなかった。」と、自身の行動を振り返ることができました。その後、今後どのように遊びを始めるべきか一緒に考えました。①始める前にどのようにやるか内容とともに確認をして明確にする。②途中で誰かが入ってきたら遊びをいったん止めて、遊び方や役の確認をする。という当たり前のことですが、なんとなくあったルールを子どもたちの言葉で明確に位置付けることができました。

　その後は次第に遊び方のトラブルが減ったことにより、RさんとMさん同士のトラブルも減少してきました。また、私から押し付けたルールではなく、子どもたちで考えたルールが明確になったことにより、意味を理解して実行する姿も見られるようになりました。

**最後に**

　一方的な生徒指導では子ども中に落とし込まれないと感じました。生徒指導の際には行動を振り返らせ悪かったことやいけなかったことを自覚させる必要があり、そこに本当の反省が見られることに気付きました。「自覚とは反省に由って起こる、而して自己の反省とはかくの如く意識の中心を求むる作用である。」とは順番が異なりますが、一方的な指導ではなく、子どもの意見や考えに耳を傾け、指導していきたいです。

**＜グループ討議から＞**

〇自分の中の神、相手の中の神をお互いに表出させていかないとトラブルは解決できない。自分自身を再構成できるのは自分だけである。

〇中学生でテスト勉強をしなくてはいけないけど、なかなかできず不安に陥る子どもがいる。“理想の自分”と“上手くいかない自分”がいて、それが合わさってあなたなんだよという気づきをさせたら、その子の中でもスッキリして上手くいくのかな、と思う。

〇教師が一方的に何かを言ったときには子どもは納得しないが、子どもが自分たちで話し合って決めたことを中心にルールを作ってやっていくと上手くいく、というのも、子どもたちが納得する・自覚することと関係してくるのではないか。

○学級経営の中で、子どもが他者を意識しすぎているが故に、自分を振り返る場面が少ないと思う。

〇人々の考えを重なり合わせていく・分かり合う・共感すること（統一力）が、“神”なのではないか。RさんとMさんが“仲良くなる”ことも、一つの“統一していこう”という作用。どうして仲良くなるのか、ということについて、人はそもそもそういう意識（これが“神”にあたる）を持っている。そこに教師が働きかけていく必要がある。

**＜唐澤　正吉先生から＞**

〇子どもの小さなトラブルをよくみて、反省させて、表面的な指導ではなく、情意まで達したいろいろな意思、行為として出てくるに至るまでに指導していく。教師が“寄り添う場”となる。子どもが立っている場に、教師が無になって場に入っていかれるか、場になれるか。場になるということは、教師としての自己実現につながると思う。

〇子ども一人ひとりが個性的になればなるほど、トラブルが起きる。トラブルのない学級はよくないのだと、後になって考えるようになった。